

隼人族の森を渡る風

創造の現場から 第34回

森の彫刻家 上床利秋

島津義弘公没後400年

島津義弘公が没後ちょうど400年にあたるという今年は、私にとつても良い思い出が刻まれた。鹿児島市石谷町の中村晋也美術館では現在、義弘銅像建立当時の懐かしい写真や、先生が仕事されたエスキース等の貴重な資料が展示されている。

今から約40年程前に遡る。当時私は鹿児島大学学生で中村晋也教室の研究生の一人だった。

そのおかげで、幸運にもこの巨大な騎馬像制作の原型を間近に見せていただける経験をさせてもらった。それだけでなく、その作品を石膏取りするという勉強は、まるでルネッサンスの彫刻家工房を体験させてもらったように記憶している。

大学時代の同級生たちはもちろん、先輩方も集結しての大仕事に中村先生のアトリエは活気付いていた。まるでコレオニ將軍騎馬像を作っているベロッキオ工房のようだと同級生東伸之君と話していたことを思い出す。自分の人生でも最も



現在JR伊集院駅前建立されている島津義弘公騎馬像(ブロンズ)



1988年当時、中村晋也先生のアトリエでの島津義弘公像の石膏取り風景。右上が筆者。

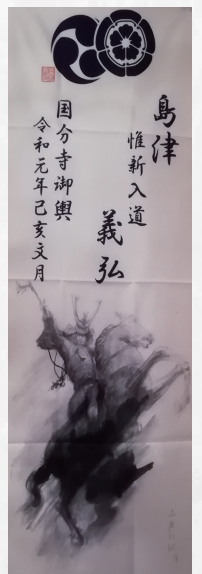
輝いていた思い出の一つになっている。

当時は便利な工作機械もなく、知恵と勇気と夢と若さで乗り切っていた。今の自分があるのはあの頃の体験があるからだと思っ

写真の中の大きな脚立に登っているのが私である。石膏が髪に降り注ぐので新聞紙でつくった帽子をかぶつての仕事になった。

展示会は10月27日曜日まで、没後400年記念島津義弘公騎馬像展という企画で現在展示中である。

数年前の幼短生涯教育の受講生だった蒲生義幸さんから電話が入った。霧島商工会議所青年部が没後400年を記念して島津義弘公をあしらった扇子をつくるので、その原画を水墨画で描いてくれる人を探しているということだった。私は水墨画家という訳ではないが、義弘公



手ぬぐい。原画をそのまま活用したデザイン

と自分とは中村先生作の騎馬像で縁が無いわけでもなく、蒲生さんの頼みとあれば一肌脱ごうと心に決めて青年部の方々からの依頼をボランティアだが引き受けることにした。

まずは騎馬像のデッサンをしてから水墨画に入った。慣れていないけれども、心を込めて描くことはできるはず。関ヶ原の戦いは義弘公が66歳だったかに聴いている。薩摩の気風と気概をイメージしての作画は楽しかった。

扇子の原画ということで描いたわけだが、手ぬぐいにもなつて今年の夏まつりの話題作りの一助にさせていただいた。現在、義弘公のデザイン扇子は国分の進行堂にも飾られている。



出来上がったデザイン扇子

敵陣突破という薩摩藩の向こうみずなボツケモンの気風を冷やかすつもりはない。
しかし現代だったならば、それに従った家来たちまで危険にさらす行為が本当に正しかったのかとされることになるのだろうか、ふと思っ自分がある。

日展会員 第一幼児教育短期大学 教授

この森のアトリエで彫刻を共に作ってみませんか

ホームページ刷新しました。

<https://douzou.jp/>

上床利秋

検索

このページのバックナンバーも読むことができます。

レモン画材絵画教室 ご案内

- 隔週水曜日 10:00～ 油絵・水彩教室
- 隔週土曜日 16:00～ 油絵・水彩 教室
- 隔週日曜日 16:00～ デッサン
- 隔週土曜日 ①10:00～ 子供絵画教室
②13:30～
- 月1回 第2木曜 10:00～ 和紙ちぎり絵教室

★ingミニセミナー〈POP文字・筆文字・絵手紙など〉チラシ等で随時ご案内致します。

お申し込みは TEL 0995-45-1015 国分進行堂・レモン画材まで